令和４年度事業報告並びに活動決算書

１．令和４年度事業全般の経過

当法人の令和４年度事業ついては、事業計画に基づき取り組みを行いました。

農地の有効活用として継続して進めてきた大豆・そばの栽培については、機械利用事業により栽培の支援を行い、大豆は生産から販売までの一連の事業支援を行いました。年々栽培者及び作付面積が減少している状況であり、令和４年度の大豆栽培は播種後の天候は順調に推移したものの、徒長による倒伏が多くサヤに実が入らなく汚損も多かった。雑草対策が間に合わず全滅した圃場も見受けられ、全体に収穫量は減少傾向にあった。

地域農業の将来の発展を目指す事業では、農業振興センターの「果樹新技術等研究プロジェクト」において設置した下久堅モデル園の管理作業をJA等と協力して行いましたが、残念ながらカラスの食害により全滅となってしまいました。次年度対策を講じる必要があります。又、農産物栽培加工研究会等と連携し新たな技術・農産物の研究等農業振興の取組みを行いました。

２．農業の担い手確保と育成

多様な担い手の確保・育成

短期間に作業が集中し雇用者を求める農家が多い市田柿作業の労働力確保に向け、市田柿加工作業及び剪定講習会を農業振興センターと協力し開催しました。特に加工作業講習会では始めて体験する方もいましたが、新たな労働力として期待する講習会となりました。

３．農地の有効活用

⑴大豆・そばの生産支援

農地の有効活用を目的とした大豆・そばの栽培は、普及拡大を目指した支援の取組みを引続き実施しました。栽培技術向上への取組み、大豆・そばの種子申込受付及び播種・収穫作業の機械利用事業による栽培者への支援を行いました。

【主な事業】

○令和４年産大豆・そば栽培説明会R04.03.23に２回開催し、38名の参加

○大豆・そば種子申込受付　申込者：大豆　23名　242kg（前年21名　253kg）

そば　　8名　121kg（前年　6名　74kg）

① 大豆契約栽培の取組み

旭松食品㈱との連携による大豆「つぶほまれ」の契約栽培を継続しました。生産拡大には栽培技術向上を図ることが重要であり、病害虫防除の徹底等を南信州農業農村支援センター及びＪＡみなみ信州の協力により、圃場巡回指導を実施し品質向上に取組みました。本年度は農産物検査にて２等となる出荷が2.1%、３等が67.6%と品質は前年に比べてやや良となりました。販売単価については、旭松食品㈱との交渉により昨年度と同様の価格での販売となりました。

【主な事業】

○大豆播種前契約者は15軒

○　8月　　5日　　圃場巡回指導の開催（15件）

○12月23日　　第１回大豆検査・出荷受入・販売

○　1月20日　　第2回大豆検査・出荷受入・販売
○　2月　 7日　　第3回大豆検査・出荷受入・販売

【取扱数量】

○農水省農産物検査基準に基づく検査結果　（市外を含む全出荷分）

等　級	2等	3等	合格	規格外	計
数　量	150kg	4,714kg	2,114kg	0kg	6,978kg
比　率	2.1%	67.6%	30.3%	0%	100%

○大豆契約栽培出荷量の推移

		H29年	H30年	R01年	R02年	R03年	R04年	前年比
市内	件数	17	12	12	11	11	12	109%
	面積（a）	436	170	211	159	353	216	61%
	数量(kg)	3,080	2,514	3,750	2,034	4,340	2,198	51%
市外	件数	7	10	8	9	11	14	127%
	面積（a）	208.1	241	231	265	367	472	129%
	数量(kg)	2,680	4,020	2,900	5,200	6,860	4,780	70%
総数	件数	24	22	20	20	22	26	118%
	面積（a）	644.1	411	442	424	717	688	96%
	数量(kg)	5,760	6,534	6,650	7,234	11,200	6,978	62%

② 播種機及びコンバイン他機械利用事業

大豆・そば栽培の播種・収穫機械利用については、ＪＡみなみ信州との業務委託により、利用効率の良い播種と刈取りを行い生産者への支援を行いました。コンバイン機械利用事業の利用者は栽培者の減少と共に減少傾向にある。

また、JA川路事業所へ設置している大豆の選粒機については前年並みの利用があった。

【機械利用取扱実績】　　税込み

		件数（戸）	面積（a）	利用料金（円）
市内大豆	播種	7	88	74,250
	刈取り	16	311	336,160
市内そば	刈取り	20	431	462,660
飯田市　計		43	830	873,070
市外大豆	播種	0	0	0
	刈取り	1	20	37,400
市外そば	刈取り	5	111	205,150
市外（町村）計		6	131	242,550
合　計		49	961	1,115,620

➢大豆選別機利用：利用者13名（前年9名）　利用数量　1,910kg（前年1,990kg）

⑵荒廃農地の発生防止

遊休農地等を再生し有効活用するための整備作業に歩行型草刈機（ハンマーモア）等の貸出しにより、農地の保全・荒廃防止の取り組みを支援しました。利用率が低いことから、本年度より自己所有の農地の再生・管理についても有料で利用できるように貸出し要領の改訂をしました。

（1回につきハンマーモア 4,000 円、ロータリーモア・スパイダーモア 3,000 円）

○ハンマーモア貸出利用件数　17 件／整備作業面積　340a（前年 9 件／193a）

（内有料の利用件数はハンマーモア　5 軒／84a）

ロータリーモア 3 件／70a　　スパイダーモア 6 件／57a　　・・・有料のみ

４．地域農業の将来の発展を目指す

◇プロジェクト事業の詳細は、農業振興センター本部会議資料にて確認をお願いします。

⑴果樹新技術等研究プロジェクト

飯田市農業振興センターの令和元年度事業として、果樹作業省力化を目指した新技術の研究、導入に向けた果樹新技術等研究プロジェクトにより梨・桃のモデル圃場の設置が進められたが、伊賀良の桃園は湿害の発生によって断念し、新たに伊賀良に梨のモデル圃場を設置してトレリスの設置（3 月）や管理作業をＪＡ・園協と連携して行いました。

⑵農産物栽培加工研究会との連携

研究会が進めている玉ネギの新たな作型栽培（セット球栽培）実証試験は、栽培方法の育苗・定植時期・栽培・収穫等に一定の成果が得られたことから普及段階へ移行し、農業振興センター広報「みどりの風」にて玉ネギセット球の自家用栽培希望者を募集し 46 名（8,000 球）の申込者に対する栽培説明会等を協力して行いました。（前年度は 29 名 4,300 球）また、年 2 作栽培が可能なジャガイモ（デジマ・ニシユタカ）、さつまいもの栽培及び加工等、今後の農地の有効活用につながる品目を研究する取組みを連携して行いました。さつまいもは JA の市田柿工房に於いて干し芋に加工して販売までつなげることが出来ました。（原料芋約 107kg 分）

令和４年度 特定非営利活動に係る活動計算書

自　令和４年４月１日　　至　令和５年３月31日

特定非営利活動法人　みどりの風

（単位：円）

科　　目	金　　額		
Ⅰ 経常収益			
1 受取補助金			
受取補助金	2,343,000	2,343,000	
2 受託料収入			
受託料収入	0	0	
3 事業収益			
事業収益	1,943,175	1,943,175	
4 その他収益			
雑収入	4,000		
受取利息	59	4,059	
経常収益計			4,290,234
Ⅱ 経常費用			
1 事業費			
① 人件費			
給与手当	38,598		
法定福利費	0		
人件費計	38,598		
② その他経費			
種苗代	0		
委託料	2,088,099		
消耗品費	3,023		
燃料費	50,503		
賃借料	0		
修繕費	215,030		
支払手数料	12,650		
旅費交通費	0		
支払保険料	70,500		
租税公課	61,900		
減価償却費	238,368		
その他経費計	2,740,073		
事業費　計		2,778,671	
2 管理費			
報酬費	254,975		
雑費	214,019		
管理費計		468,994	
経常費用計			3,247,665
税引き前当期正味財産増減額			1,042,569
法人税、住民税及び事業税			71,000
当期正味財産増減額			971,569
前期繰越正味財産額			6,635,574
次期繰越正味財産額			7,607,143